

鉄 道

フォト劇場 (32)

写真が生まれるものがたり

ローカル線ホームに立てばすれちがふ電車を待ち
て草むす線路
京 表楳

内房線君津駅以南は、複線化されることなく
現在に至る。鉄道で東京―館山は京都より遠
い。写真では、駅の反対ホームはほぼ使われ
ず、草が生えている。今年三年ぶりに訪れた
私の愛する安房勝山の、駅を思い出す。

新しい星に降りたつ心地して線路は夏の終わりの
匂い
工藤亜希子

鉄道は未知の場所へ私達を運んでくれる。遠
い旅先で、初めて見る光景なのに何か懐かし
いような気持ちになることがあるけど、銀河
鉄道999で銀河を旅している少年もそんな
気持ちになることがあっただろうか。



写真・木畑紀子

夏^{なつあけ}暁の始発電車の奔りだす一輛目に乗るはずだつ
たきみ
山田宗夫

昨年の豪雨で橋が毀たれ隣駅での折返し運転
となったため、長くその駅は廃駅の寂しさを
呈した。かつて若い二人が示し合わせてこの
駅から出奔し騒動になったが、私なら怖気づ
いて乗らず仕舞だつたらうと思った。

線路沿ひのコスモス見つつ生来の笑みもどり来ぬ
ありし日の母
木戸博恵

突然の交通事故で父を亡くし、認知症が兆し
始めた母は徐々に落着きをなくしていった。
そんな母と芸備線の電車に乗り、線路沿いに
咲くコスモスを一緒に眺めた。気づけば穏や
かな笑みを浮かべた母がそこに座っていた。